

体感・実感と共感による減災行動誘発のための情報システム開発

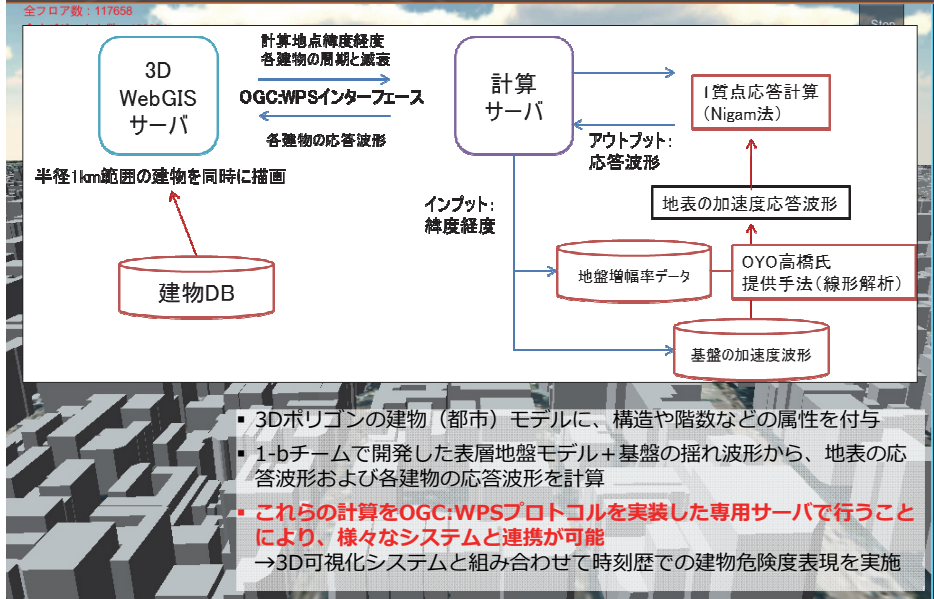
名古屋大学減災連携研究センター 倉田和己

- これまで名古屋大学が開発してきた体感型教材や振動台、eラーニング、WebGIS、その他情報システム群を発展させ、減災館のような施設において公開し、地域の減災行動を誘発していくことを目的とする。
- 本報告の内容は、今年度から開発を開始し、本プロジェクトを中心に完成度を高めていくシステムの「初期バージョン」である。
- ・ その他の開発テーマ：
スマートフォン、タブレット端末、AR、没入型VR、シナリオ教材、まち歩きワークショップ支援システム
歴史資料・古地図情報の利活用（集落、ため池、旧河道、神社、石碑など）

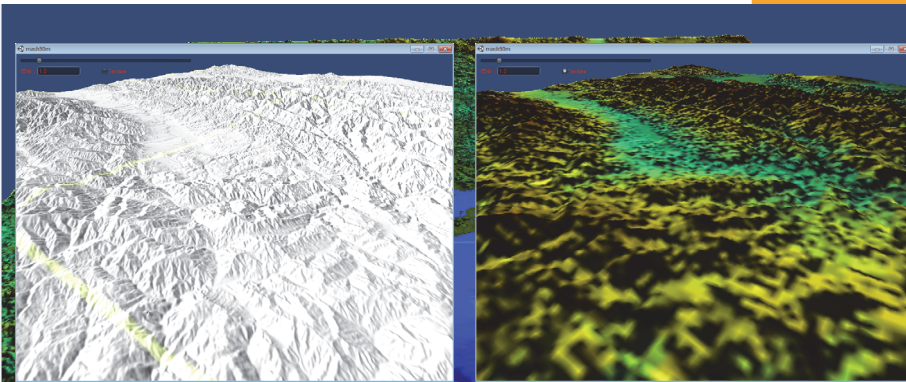


Page • 1

建物応答計算 & 3D可視化システム ～OGC:WPSシミュレーションサーバとの連携



3D地理情報ビジュアライズ教材 ～精緻な地形模型とハザード情報の融合展示



- 海域+陸域の統合DEMモデルを用いて、東海エリアの地形を3Dプリンタで精緻な立体模型化
- 天井から垂直にプロジェクタを投影し、ハザード情報や地形情報、津波浸水・地震波動伝播シミュレーションなどを地形模型に投影
- デジタル表現（ハザード情報）とアナログ表現（精緻な地形模型）の融合によって実感できる教材を実現する

3Dバーチャル振動体感・体感シミュレーション ～一部屋まるごと振動台とバーチャル空間の連動

